

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	オクタン・バーン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.043	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：OCTANE BURN

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

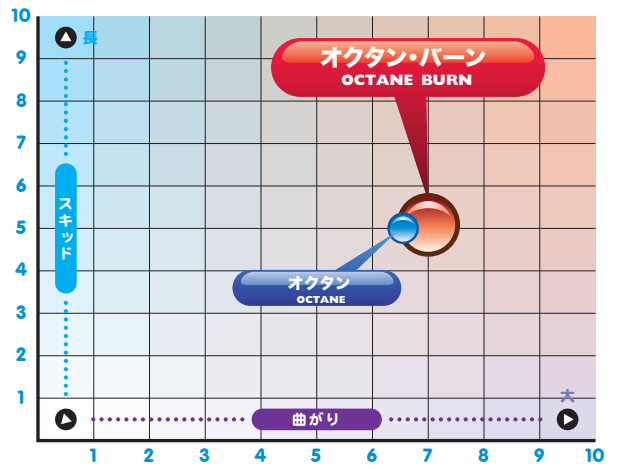
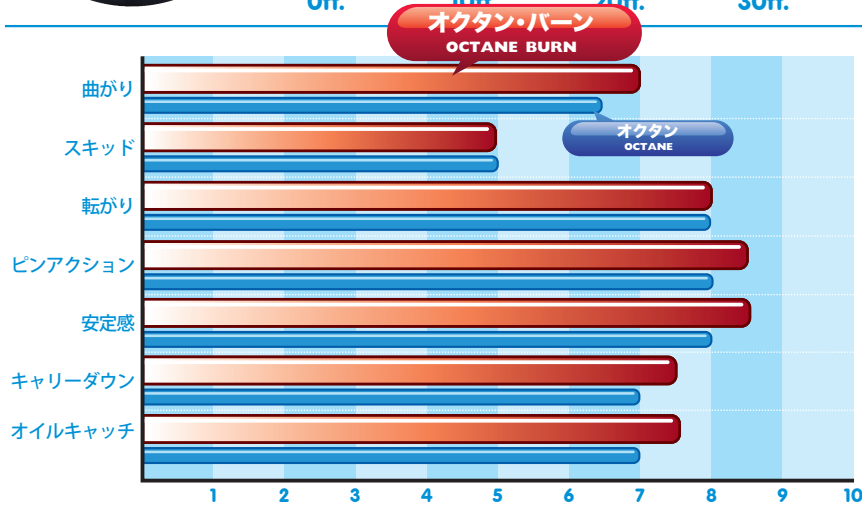
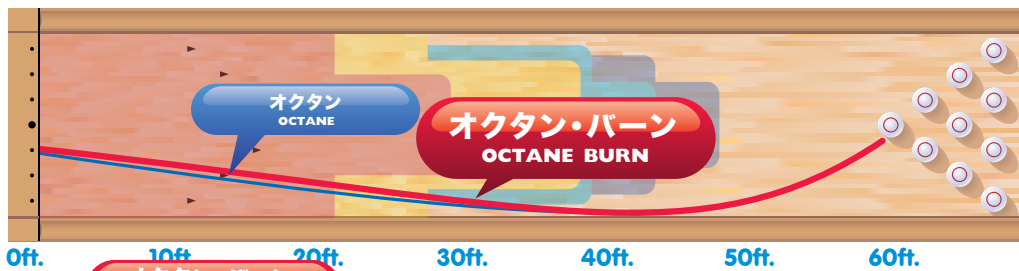
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：OCTANE

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

今や世界で最も注目度の高いメーカーとして名を馳せたMOTIVブランド。QZシリーズからOctaneまでQuadfire Coreで作ったボールすべてはどれもBackendで魅力を感じるボールばかりでした。今回のOctane BURNもその性能を継承したBackendが信条といえるボールを皆さんに紹介いたします。まずOctaneからの違いはAgility ReactiveからFORZAやFORZA REDLINEやREVOLT HAVOCに使用されたHelix Reactiveの”SFP”(Skid Flip Pearl)Coverstockに変更されたことです。Agility CoverstockからHelix Coverstockに変わったことで、Octaneよりもドライゾーンでのブレーキが強くなり、角度のあるAngularな動きを出しながら全体的にキャッチを強めることができるようになりました。対応領域はMedium Lightが中心で、同じ領域内のVenom ShockやVenom Panicよりもしっかりとスキッドしますが、より先で動きがでるイメージに仕上がっています。実際に比較投球してみると”Quadfire Coreはやはり魅力がある”と常に思うほど、先での動きが強調され角度の鋭さを感じます。Octaneとの比較ではOctaneの方がやや丸くキレてくるのに対し、Octane BURNは滑らかさを感じるのですがキッチリ向きを変えて曲がるイメージを持てます。それはドライゾーンがしっかりと見えてきたときに激しさを増す初代のOctaneなのか、曲がり具合を保つOctane BURNなのかの差はあります。

Octane BURNは「しっかり走ってほしい」、「遅くなったときに使いたい」、「入射角が欲しい」、「激し過ぎないリアクション」の4つを兼ね備えたボールだと思います。MOTIVファンで後半使うボールで困っていた方にはぜひ使用してもらいたいボールだと思います。

特記事項

走ってキレル代名詞のOctaneの最新作は走りとキレの中に安定感を求めたNew Specです。MOTIVシリーズで走り系の性能が足りない方はこのボールは押さえておかなければなりません。